RECELL®
Autologous Cell Harvesting Device

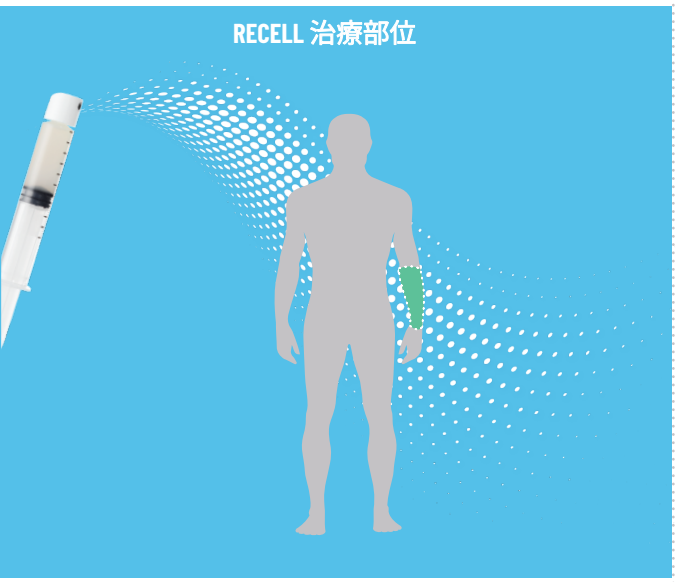
RECELLシステム®を使用した治療により、深達性部分層熱傷治療に必要な採皮面積が減少

CASE STUDY

Michael Feldman, MD, FACS
Virginia Commonwealth University, Richmond, VA

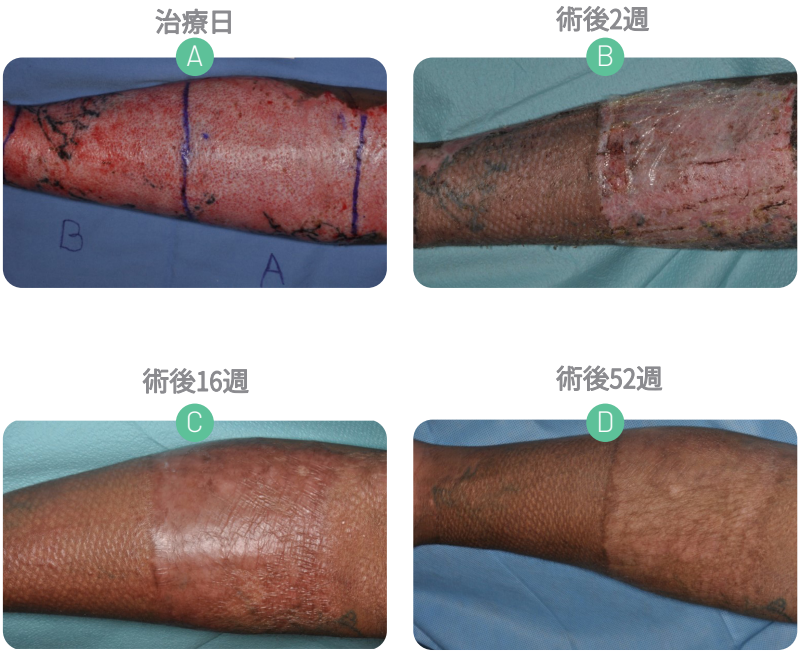
患者の状態

左上肢に火炎による8% TBSAの深達性部分層熱傷を受傷した22歳男性。この患者には既往歴や共存疾患は無い。本症例では左前腕に対する2:1網状分層植皮術（STSG）とRECELL治療および治癒アウトカム12か月フォローアップに注目する。



結語

本症例では、深達性部分層熱傷創の治療にRECELLを使用する事により治癒期間に妥協する事無く、従来の自家植皮に比べて採皮面積が縮小出来た事が示されている。16週目、色素再生と創部の盛り上がりに関する創部評価では、2:1網状植皮に比べ、RECELLで治療した部位の方が、健常部位に近いという結果となった。



治療法

この患者の治療は、前向き無作為比較臨床試験の一環として実施された。熱傷創に接線切除術を行い、同等の2つの部位に分け、無作為に2:1網状植皮術を行う部位とRECELLシステム（図A）で作成するSpray-On Skin™ cellsを適用する部位に分けた。どちらの治療部位にも被覆にはTelfa™ ClearとXeroform™および厚みのあるドレッシング材を使用し、滲出液の吸収と再生中の表皮の保護を行った。

臨床的アウトカム

熱傷創の治療にRECELLを使用する事で2:1網状植皮術に比べ採皮面積が98%縮小された。治療後2週目にはRECELL治療部位と2:1網状分層植皮治療部位のどちらも治癒した（図B）。16週目（図C）及び52週目（図D）では、比較対象部位でメッシュ痕が目視で確認できるが、RECELL単独による治療を行った箇所では何も確認できなかった。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

RECELL®
Autologous Cell Harvesting Device

RECELL専用サイト

製造販売元
COSMOTEC
コスモテック株式会社

製造元
avita medical

© 2022 AVITA Medical. All rights reserved.